

目的 3年間だけ、ほとんど毎日着用するという、特殊な衣服である学校制服について、社会的、教育的、経済的、衛生的等、多方面から検討することを目的とする。既に、学校制服に対する教師の意見については発表したので、本年度は、生徒および保護者の、制服に対する意識について、および衣生活について調査し、検討した。

方法 東京都内全域の、公立・私立・国立の中学および高校の、生徒および保護者を対象に、郵送式アンケート法により調査を行った。有効回答者数は、中学39校、高校41校の男子656名、女子939名、計1595名で、保護者は1206名であった。

結果 制服について、生徒達は、(調節しにくく、機能的・活動的でなく、着心地もよくない。しかし経済的であるし、必要であり、好きである。制服はイメージが暗く、個性も表わせなく、センスも育てないが、学生らしい気持ちになれる。制服は非行防止にならないが、派手な服装をしたいとも思わない。ブレザーより、セーラー服や詰めえりが着たい。)と考えている。また、自分が着ている制服については、(制服に対する規則はやや厳しく、そうでない方がよい。手入れは面倒で、冬はやや寒く、特に夏は暑い。)と考えている。

保護者達は、生徒達以上に、(制服は大変経済的であり、必要である。また、制服は明るいイメージで統一美があり、非行防止に役立ち、子供の学校を誇りに思えるし、派手な服装はさせたくないから、必要である。)と考えている。

衣生活一般については、生徒達は、(服装に関心を持つことは良い事で、ファッションに関心がある。個性が大切で、服は自分で形や色で選び、T.P.O.を考えて着る。)としている。